

学番	58	県立十日町高等学校松之山分校
----	----	----------------

平成30年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告					
学校運営方針		一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな指導の実践。生徒が安心して過ごせる教育環境の保持。地域保護者との連携、交流。松高だからこそ可能な、徹底した個別学習指導。			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
(成果) 1 学力、社会適応力の向上等、生徒に生きる力を身に付けさせることができた 2 個に応じた進路指導を行い、大学等進学、就職内定等、早期に進路希望を達成できた 3 体育祭・文化祭に、地域の方が多数参加した 4 警察との連携で適切な交通指導を実施できた 【課題】 1 家庭学習の習慣化を図り進路実現への挑戦に必要な学力をつける 2 家庭・関係機関と連携した生徒への支援 3 無事故を目指し、交通安全指導を徹底する		1 一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな指導の実践	多様な生徒が共に学ぶ場であることから、個々が抱える課題について情報共有し、効果的な指導のあり方について教職員で知恵を出し合い協力して指導をおこなう。様々な生育歴を持つ生徒への「新しい自分づくりへのサポート」		
		2 生徒が安心して過ごせる教育環境の保持	生徒に集団生活のルールを守り、当たり前ことができ、他者の痛みがわかる感性を育む。そのために教職員も自身をコントロールし毅然とした態度で丁寧に指導当たる。孤立したり悩んだりする生徒を決して見過ごさない。		
		3 地域・保護者との連携と交流	地域・保護者との連携が学校の教育活動を充実させることから、①目に見える形で学校の取組を発信し、理解と協力を求める。②人材活用・企業訪問等でキャリア教育を実践する。③体育祭・文化祭を週休日に実施しさらなる交流を図る。		
		4 松高だからこそ可能な徹底した個別学習指導	「日本一面倒見の良い」分校として個々の生徒に寄り添い徹底した個別指導を実現する。これにより大学等への進学を実現する。		
重点目標	具体的目標	具体的方策			評価
進路指導	多様な進路希望に応じたキャリア教育を進める	各学年に「進路の手引き」を配付し、必要な情報提供をする。 進路意識を高めるために進路ガイダンスを開催する。 地元企業訪問と上級学校見学を実施する。			B A A
	基礎学力の定着を図る	大学進学を目指す生徒を対象に模擬試験を実施する。また、生徒の希望に応じて公務員模試や医療看護模試を実施する。 模擬試験の事後指導を行う。 定期考査後に、到達度の低い分野、生徒の補習を行う。 長期休業中に計画的に補習を実施する。			B B A B
生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる	身だしなみ、礼儀作法、挨拶の励行について継続的な指導を行う。 集団における望ましい行動について、指導を行う。 中高連絡協議会の情報を活用し、地域内外での生活や行動について指導を行う。			B B B
	バイク事故を「0」にする	交通安全講習会やバイク実技指導を実施する。 運転経歴証明書の提出を義務化するとともに、バイク通学許可式を開催する。 月に一度、バイク点検及び指導を行う。			A A A
	人権意識を培い、安心、安全な学校を作る	教職員自らが人権意識を磨き、いじめや暴力を見逃さない、許さない指導を行う。 サポート事業や個別面談などを通じて生徒理解に努め、生徒の課題解決を助ける。			A A
校内美化	校内清掃がゆきわたるようにする	全校生徒で清掃区域を分担し、校内清掃を行う。学期ごとに清掃用具の点検をする。			A A
	ワックスがけを徹底する	校内のワックスがけを実施する。			A A
特別活動（生徒会）	活気ある生徒会行事を実施する	年2回、生徒総会を開く。 松高祭、体育祭の日程、企画を工夫し、地域との交流を主眼とした学校行事とする。			A A
	ボランティア活動への参加を促す	地域のボランティア活動への参加を促す。 各種募金などを通してその意義を理解させる。			A A
部活動	部活動の活性化	部活動加入率の向上を目指すとともに、活動しやすい環境整備に努める。			B B
	各種大会への参加 目標達成を目指す	計画的に活動させるとともに、目標を設定して目標達成を目指す。			B B

重点目標		具体的目標	具体的方策	評価		
教 科 指 導	国語	国語を的確に理解し、表現する能力を身に付けさせる	漢字の小テスト、漢字検定を通じて漢字の力を伸ばす。 読書を含め、幅広いジャンルの文章に触れさせる。 作文等、表現活動を積極的に行う。	A	A	A
		古典に親しむ態度を身に付けさせる	辞書の活用を指導し、自ら学ぶ力を養う。 音読、朗読、暗唱をとおして古典に親しむ。	B A		
	地歴 公民	現代社会に対する関心を持たせる	新聞等のニュースを授業で取り上げ、身近な問題に対する関心が高められるようにする。	A	A	A
		歴史的思考力と公民に必要な思考力を自ら育てる	資料集等の副教材を有効に活用する。 演習ワークを活用し、自ら学ぶ姿勢を育てる。	A A		
	数学	計算力を向上させる	問題演習を多くし、計算の定着を図る。 小テストを随時実施し、単元の理解を確実にする。	B B	B	B
		数学的な見方や考え方の良さを認識させる	観察・操作・実験などの数学的な活動を取り入れ、自ら学び自ら考える力を養う。	B	B	
		根気強く論理的に考える力を養う	問題解決的な授業を多く取り入れ、解決に至るまでの過程を大切にす。	B	B	
	理科	科学的に探究する能力、態度を育てる	観察実験については年6回以上行うものとし、結果に対する論理的かつ客観的な考察を重視する。	B	A	A
		科学的な自然観を育成する	新聞・ニュースやインターネットなどから取り上げた身近な自然現象の話題を教材として活用する。	A		
	保健 体育	基礎体力を付ける	毎時間5～10分間の有酸素運動と補強運動を取り入れる。	A	A	A
		生涯スポーツへの動機付けを行う	ニュースポーツを導入し、少人数でも動く楽しさを学ばせる。	A	A	
		健康に関する興味関心を深める	新聞を活用し、スクラップノート作りを徹底させる。	A	A	
芸術	芸術を愛好する心情を育てる	作品展示、発表を積極的に行う。	B	B	B	
		芸術について理解を深め、主体的な学習態度を育てる。	C			
英語	文法の定着と読解力を養成する	問題演習を強化し、基礎学力を定着させる。 定期的に小テストを実施し、学力向上を図る。	A A	A	B	
	コミュニケーション能力の伸長を図る	授業以外でも積極的にALTと交流させ、コミュニケーション能力を向上させる。	B	B		
情報	社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化社会に主体的に対応できる能力と態度を育てる	情報の表現方法について理解を深め、実習をとおして情報発信能力を身に付けるとともに、情報処理技術を向上させる。	B	B	B	
		情報通信ネットワークを活用したコミュニケーション能力を高める。	C			
		新聞やニュースを通じて、情報化の利点や注意すべき事柄に対する関心を高め、理解を深める。	A			
家庭	基礎的な生活的自立の育成と地域とのつながりの重要性を理解させる	教科書学習ノートに準じて調理実習ビデオ学習を行う。	B	B	B	
		年2回調理実習を行い、調理カードを作成、提出させる。	A			
		ビデオ鑑賞後、感想文を提出させる。	B			
		家庭基礎、服飾文化選択者の作品を文化祭で展示する。	A			
人権・ 同和教育	お互いの人権を尊重し合う態度を育成する	「講演会」を1回、ビデオ学習を1回実施する。	A	A	A	
		差別問題を身近なこととして捉えられるよう、適切な教材を選択する。	A			
PTA・渉外 活動	PTA活動の活性化を図り、青少年の健全育成に取り組む	検定試験等を小中学校と合同で実施し、地域との連携を図る。	A	A	A	
		家庭環境や社会の変化に迅速に対応するため、各種研修会に積極的に参加する。	A			
地域との 連携 広報活動	地域と密着した生徒指導を実施する	地域の行事などに積極的に参加させる。	C	C	B	
		登下校時の挨拶。電車、バスの乗車マナーを指導する。	B			
	広報活動を充実する	PTA便りを年2回町内全戸回覧する。 毎月分校だよりを町内全戸回覧。十日町市内、津南町の中学校に毎月配付するとともにHPに掲載する。	A A			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力、社会適応向上など、生徒に生きる力を身につけさせる取り組みが増加した。</li> <li>・安全安心な学校作りのための講演、講習、職員研修、施設管理を実施できた。</li> <li>・体育祭、文化祭に多くの地域の方から参加していただいた。</li> <li>・「生徒の幸せのために」全職員で向上心を持って協力して取り組んだ。</li> </ul>			総合評価		
				A (A9, B8)		

学番	58	県立十日町高等学校松之山分校
----	----	----------------

平成30年度

学校関係者評価（報告）

## 学校関係者からの評価・意見等※

外部評価アンケートより

- 地域との関わりが必要だと感じた。
- 地元の高校で特色ある学校を目指していると思う。
- 楽しそうな雰囲気を感じた。熱心な取り組みに感謝する。

保護者アンケートより

- 少ない人数の授業で、子供には合っている。資格や検定の取得につながり中学より成績が上がったと思う。
- 学習面での心配があったが、最後まで子供のことを考えてくれた。
- 少人数での指導と自然の環境が子供に合っているのだと思う。
- 先生方の目が至る所に行き届いている。
- 人数が少ないので先生方から勉強の他にもいろいろ教えていただいている。
- 少人数なので個々にあった対応をしていると思う。
- 子供が悩んでいるときは、しっかりと先生が話を聞いてくれ、学校をいやがらず登校している。
- 子供のことをきちんと見てくれ、気軽に話してくれありがたい。口数が少ない子には助かる。
- 生徒の人数がちょうどよいと思う。我が子に合っている。
- 少人数なので、全職員が全校生徒を見守ってくれている。

質問項目	とても思う	やや思う	あまり思わない	思わない
進学や就職等に関する進路指導が適切に行われている	54.5%	36.4%	5.5%	3.6%
補習等による個別指導は効果を上げている	40.0%	50.9%	7.3%	1.8%
服装やルール・マナー等についての生徒指導が行き届いている	36.4%	54.5%	5.5%	3.6%
学校は子供や悩みや相談等に親身になって応じてくれる	56.4%	41.8%	1.8%	0.0%
体育祭、文化祭等の学校行事が充実している	69.1%	27.3%	1.8%	1.8%
学校はわかりやすい授業が行われている	41.8%	50.9%	5.5%	1.8%
宿題や課題は適切に与えられている	38.6%	49.1%	10.5%	1.8%
学校の雰囲気がよく、楽しく学校生活を送っている	58.2%	32.7%	7.3%	1.8%
生徒の指導に関して、家庭への連絡や意思疎通が図られている	49.1%	47.3%	0.0%	3.6%
子供が松之山分校に入ってよかったと思う	87.3%	12.7%	0.0%	0.0%

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

学番	58	県立十日町高等学校松之山分校
----	----	----------------

平成30年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学希望者には模擬試験の受験を必須とし、復習と学力定着のための事後指導を補習授業等を通じて充分に行う。</li> <li>進路希望を実現させるために早くから準備することの重要性を理解させ、進路実現のために個々に応じた具体的方策を指導する。</li> <li>漢字検定、数学検定、英語検定など資格取得の有用性を理解させ、合格者増加に向けて指導方法を工夫する。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の指導方針について保護者に理解を求め、保護者との情報交換をより活発にして強固な協力体制を築く。</li> <li>ルールやマナー遵守、他者を思いやる気持ちの大切さなどについて、ホームルームや全校集会を利用して生徒へ伝え、安心、安全な学校づくりに努める。</li> <li>バイク事故ゼロを目指して、バイク通学者には「運転履歴証明書」の提出を義務づけ、通学許可式、車体点検、交通講話、技術講習、危険予知訓練などをおして交通安全についての意識を喚起する。</li> </ul>
校内美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内外の清掃活動を徹底させるとともに、生徒主導の全校ワックスがけを年1回行い、勤労奉仕の意識を醸成する。</li> <li>定期的な清掃用具の点検及び補充を行う。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員を中心とした生徒会活動ならびに生徒会行事を活性化させる。</li> <li>体育祭や文化祭などの学校行事をとおして、地域との一層の交流を図る。</li> <li>部活動への参加を奨励することで部活動参加人数を増やし、活性化させる。</li> </ul>
地域との連携広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>分校の教育活動の内容や成果を、ホームページや毎月発行する「松之山分校だより」をとおして積極的に発信していく。</li> <li>保育園、小・中学校との積極的な情報交換を行い、連携を密にする。</li> <li>検定試験等を小中学校と共同で実施する。</li> </ul>
人権・同和教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では男女差別やいじめ問題、2年生では被差別部落の歴史、3年生では就職差別といった生徒の発達段階に応じた人権・同和教育計画を立案し、指導を行う。</li> <li>教員の研修会への積極的な参加を促し、研修後は校内伝達会議を開催する。</li> </ul>
教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語 — 漢字の読み書きや読書を奨励し、語彙力の向上を図るとともに、作文指導等を通じて自らの考えを論理的に伝える表現力の向上を図る。</li> <li>地歴公民 — 必要な基礎知識を定着させ、わが国や国際社会の展開や現代社会の仕組みに興味・関心を持たせる。また、課題研究等を実施して自ら学ぶ姿勢を涵養する。</li> <li>数学 — 習熟度に応じた個別指導で基礎基本を定着させ、身の回りの数学的な活動を取り入れ、課題解決に向けた過程を自ら学び、論理的に考える力を身に付けさせる。</li> <li>理科 — 生徒にとって身近な教材を活用し、興味・関心を育てる。また、課題研究等を実施して自ら学ぶ姿勢を涵養する。</li> <li>保健体育 — 男女共修による少人数授業の展開並びに実施種目を工夫し、体力の向上を図り、生涯を通じたスポーツ活動への興味・関心を育てる。また、マナーや生活習慣に関する知識を付けさせる。</li> <li>英語 — 習熟度に応じた教材を工夫し、基礎学力の定着を図るとともに、英語で表現しようとする態度を育てる。また、課題研究等を通じて、自ら学び、表現する力を身に付けさせる。</li> </ul>